

「紀伊山地の霊場と参詣道」
世界遺産登録二十周年記念イベント

未来への

たなばた
七夕メッセージ

大斎原から、希望の光を世界へ

2024

7/7 (日)

9:00～12:30 (予定)

熊野本宮大社

旧社地 大斎原

定員 先着 500 名 (入場無料)

※雨天の場合

熊野本宮館 北棟 多目的ホール

定員 先着 100 名 (入場無料)

プログラム

9:00～奉納奉告祭

熊野筆贈呈式

9:30～「未来への墨痕」～書道パフォーマンス～

宮司の一文字に答える形で
高校生達が未来に向けて
メッセージを揮毫し奉納します。

10:00～中上 紀氏 記念講演
「世界遺産と中上健次」

11:00～「熊野の未来を語る」
記念トークセッション

登壇者

- ・作家 中上 紀
- ・田辺市長 真砂充敏
- ・上富田町長 奥田 誠
- ・白浜エアポート代表取締役社長 岡田信一郎
- ・熊野田辺ツーリズムビューロー代表理事 多田稔子
- ・和歌山県立熊野高校、本宮中学校の学生
- ・熊野本宮大社宮司 九鬼家隆



〈お問合せ先〉

熊野本宮大社

〒647-1731 和歌山県田辺市本宮町本宮1110

0735-42-0009

主催 熊野本宮未来創造実行委員会

後援 和歌山県・田辺市・上富田町

協賛 熊野筆事業協同組合

株式会社 東農園

ながみのみ

中上紀

中上健次・紀和鏡夫妻の子として東京都国分寺市に生まれる。高校、大学時代の十年間をカリフォルニアとハワイで過ごす。ハワイ大学芸術学部卒、東洋美術を学ぶ。アジア各地を旅行し、一九九九年、ビルマ紀行を上梓し、「彼女のプレнка」ですばる文学賞受賞、

以後、作家、紀行文作家として活躍する。父の故郷、熊野には幼少期より毎年通っていた。



一九八六年七月、熊野本宮大社旧社地大斎原にて、作家中上健次氏により書き下ろされた戯曲作品「かなかぬちーちのみ」の父は「いませず」が上演されました。七月七日当日、世界遺産熊野本宮館北棟では、当時の写真など資料をコーナー展示する予定です。

広島県立熊野高等学校

広島県立熊野高等学校は、県内唯一の「芸術類型」を有する普通科の高校です。

「感動」を「行動」に、そして「ウェルビーイング（幸福）」を教育目標に、学校行事だけでなく、姉妹校や小・中学校との交流、地元熊野町との連携事業などに積極的に取り組んでいます。

二年からは芸術類型、文科型、理科型に分かれ、芸術類型では音楽・美術・書道・アートディレクションの各コースにおいて専門性の高い授業、アートを盛り込んだ探究的な授業を展開しています。



和歌山県立熊野高等学校

和歌山県立熊野高等学校は、総合学科と看護科をもつ高校です。

総合学科は、自分の夢（進路）を切り拓き、実現するために自ら「高校生活を創造」していく学科です。

また、県内唯一の看護科は、五年間で看護師を養成する学科で、「看護師になるための最短コース」です。熊野高校には、自分の夢を実現するための「学び」があります。



熊野筆事業協同組合

広島県熊野町の伝統的工芸品「熊野筆」の製造・販売に取り組む事業者でつくる熊野筆事業協同組合が、昨年熊野本宮大社に「熊野大筆」を奉納したのがご縁で今回が二回目の奉納となります。

熊野筆は毛筆や画筆、化粧筆のいずれも全国一の生産量を誇り、国の伝統的工芸品にも指定されています。本記念イベントにおいて、合計三本の熊野筆を奉納頂きます。



熊野大筆奉納寄贈奉告祭 (2023.08.15)